

退任後の活動事例



林業と観光を掛け合わせた新規事業を展開し地域を活性化

～複業型林業経営を目指して～

いけだちょう

北海道池田町は、ワインや酪農のイメージが強いですが、実は町の面積の6割を森林が占めています。その森林には、人工林として植えられたカラマツなどの針葉樹と、自然に育ったミズナラやカシワ、シラカンバなどの広葉樹が共存して育っており、天然林を活かす小規模林業(自伐型林業)を展開しようと動いています。新しく始める森林空間を活用した事業を担っていただける人がいると嬉しいです。



かわせ ちひろ

北海道池田町 元地域おこし協力隊員 川瀬 千尋さん(活動期間: 令和2年度～令和5年度)

任期中は、独立後の林業経営を見据えて、技術や知識の習得と生業作りをメインに活動していました。現在は山林管理、間伐や講師の請負、山菜やきのこのガイド・イベント運営、JRコンテナを活用したきくらげの生産、特殊伐採、山林売買、薪ストーブを活用した民泊の運営などを行っています。

来年は林業と観光業(アドベンチャートラベル)を掛け合わせた新規事業を行う予定にしています。



独立して林業に取り組み、木工やハンモックづくりのワークショップも開催

～人と山をつなげるために～

しらかわちょう

とうのうひのき

岐阜県白川町は、林業関連産業が盛んで、特に優良材「東濃桧」の産地であり、「東濃桧」を柱材として使用した産直住宅建築に関わる事業者が多く所在しています。林業関係で活動する地域おこし協力隊には、森林整備や林業関係イベントスタッフ、「林業担い手育成協議会」事務局等の仕事を通して、町林業を牽引する人材となることを期待しています。



みやけ かなえ

岐阜県白川町 元地域おこし協力隊員 三宅 佳奈恵さん

(活動期間: 令和元年度～令和4年度)

任期中は、複数の町内林業者の下で林業技術を学んでいました。

退任後は、町内に定住し独立して林業を続ける傍ら、山林を購入し山主になり、キャンプ場開拓や木育活動を実施しています。また、ヒノキを使った木工やハンモックづくりのワークショップを開催し、人と山をつなげる活動をしています。

今後は、自分の山で「山の遊び場」を作りイベントを実施するなど、山の魅力を伝えたいと思っています。



森と生きる人材として、退任後も幅広く活躍

～森と人の調和のとれた暮らしを未来へ～

しもきたやまむら

奈良県下北山村は、地域おこし協力隊や協力隊経験者が安心して山で働けることにつながるために、下北山村森林経営管理事業(村が主体となって民間の山を整備していく制度)を使い、山林所有者と村とで管理協定を結び、山を整備していく仕組みを作りました。協力隊経験者がレンタルできる重機を購入したり、労働災害保険の加入にあたり助成を行ったりしています。また、森にとっても人にとっても無理のない森林整備を行うことで持続的な森林や暮らしを未来へつなぐために様々なしくみづくりを行っています。



やすい ひろふみ

奈良県下北山村 元地域おこし協力隊員 安井 洋文さん(活動期間: 令和2年度～令和3年度)

かわの ゆうこ

河野 裕子さん(活動期間: 令和元年度～令和3年度)

任期中は、自伐型林業を軸に学び、退任後には2人で林業とデザインを軸に合同会社森のびを設立。下北山村と山林管理委託契約を結び、民有林の管理・整備を行いながら作業道を活用し小学生を対象とした森林環境教育、協力隊の人材育成や林政アドバイザー業務などを行っています。森の持つ価値を多くの方に伝えていくために活動していきます。



マウンテンバイクと農業体験で地域おこし

～土地の強みを生かす“山輪”活動～

いなし

長野県伊那市は、長野県の南部に位置し、中央アルプスと南アルプスに抱かれ、市域の80%以上が森林が占めている、自然に恵まれた地域です。

地域おこし協力隊の人材を活用し、林業のみならず、観光や健康等、多様な分野での森林の利活用の推進にも取り組んでおり、キャンプ場やマウンテンバイク等の野外アクティビティが充実しています。



みやさか けいすけ

長野県伊那市 元地域おこし協力隊員 宮坂 啓介さん(活動期間:平成29年度～令和元年度)

在任中は、市内のマウンテンバイクコースの設置、管理、運営を行ったり、マウンテンバイクと農業体験等をセットにしたメニューを企画し実施していました。また、マウンテンバイクで山林内の不法投棄のパトロールや、自然災害による風倒木の処理等を地域と協力して行っていました。

任期終了後は法人を立ち上げ、引き続きコースの管理・運営を行い、より多くの方に山遊びの楽しさ・土地の野菜や果物のおいしさを知ってもらえるよう、活動しています。



森林資源の新たな活用方法を見出す

はぎし

山口県萩市は、明治維新胎動の地として歴史文化資源を有するとともに、美しい海岸線から山間部まで、素晴らしい自然に恵まれた地域です。

このうち、市域の8割を占める森林の資源を活用していくため、「次世代まで幸せになる林業」を目指し、地域おこし協力隊など多様な人材が連携した取組を進めています。令和6年度までに4名の地域おこし協力隊員を受け入れており、様々なアプローチで森林資源の活用方法を見出しています。



そのだ こうき

山口県萩市 元地域おこし協力隊員 園田 滉樹さん(活動期間:平成30年度～令和3年度)

任期中は、地元森林組合や製材加工事業者と連携した木材生産・加工、木工体験等を組み合わせた事業化を実施していました。

退任後は、木工品等を商品とする工房兼ギャラリーをオープンして、木工作品の販売や木育体験活動を実施するほか、地域の森林から自ら資源を取得し活用する自伐型林業にも取り組んでいます。



きのこ園を第三者継承し、地域の技術を受け継ぐ ～「第三者継承」で地域おこし～

かさまし

茨城県笠間市では、地域おこし協力隊員を採用することで、地域資源を発掘し、それらを活用した振興活動などを通じて、地域活性化への起爆剤になることを期待しています。

地域おこし協力隊経験者の川島さんは、隊員としての期間中に「福王しいたけ」に出会い、卒業後はその魅力を未来の笠間につないでいくため第三者継承として就農しています。現在はイベントやメディアへの出演を通して、地域活性化の牽引役を担っています。



かわしま ひらく

茨城県笠間市 元地域おこし協力隊員 川島 拓さん(活動期間:令和元年度～令和3年度)

地元に貢献しようと、茨城県にUターンし協力隊に採用されました。任期中は、笠間市産農産物のPRやインターネット販売サイトの立上げなどを担当。その活動の中、笠間市産のおいしいきのこに出会い、同時に、きのこ栽培の後継者がいないことを知りました。

退任後、後継者不足で廃業予定だったきのこ園を、第三者継承のかたちで経営を引き継ぎ、今後はさらなる経営発展を目指していきます。

